

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 七ヶ浜町立向洋中学校 】

1 実践テーマ	①・II・III・IV・⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：全学年（11学級：253名） ※他に保護者(約150名)がその様子を参観
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (校内体育祭) ③ その他 (給食時における委員会活動及び単学活) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちのオリンピック・パラリンピック東京大会への興味・関心を高めるとともに、地元七ヶ浜の東京オリンピック・パラリンピック大会へ向けた気運を高め、明るく最後まで一所懸命競技する自分たちの姿を通しコロナ感染拡大で意気消沈している人たちに元気を与える。 震災復興支援への感謝の気持ちと地元の復興を地域の方々と共有する。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちのオリンピック・パラリンピック東京大会への興味・関心を高め、加えて地元七ヶ浜の東京オリンピック・パラリンピック大会へ向けた気運を高めるため、コロナ感染拡大のため期日延期を受け、開催が危ぶまれた体育祭の開会式で聖火リレーを実施した。申請当初は、地元七ヶ浜町で実施が予定されていた本物の聖火リレーに合わせ、街頭に出て小旗を振りながらの全校応援を計画していたが、聖火リレーが新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期となってしまった。そのため、オリンピック・パラリンピック東京大会へ向けて今自分たちができることを考えさせたとき、自分たちの体育祭の中で聖火リレーをすることで、向洋中生はもちろん、地元七ヶ浜の人たちの東京大会へ向けた気運を高めることができるのではないかと考え、内容を変更してこの事業に参加することとした。 ○聖火プロジェクト（10月24日実施の体育祭開会式の中で、生徒たちによる聖火リレーを実施する）

<開会式次第>

1. 選手入場
2. 開式宣言
3. 国旗町旗校旗掲揚
4. 聖火入場(聖火プロジェクト)
 - 1) ピロティー前の時計脇に聖火台設置
 - 2) 生徒入場後前回の東京オリンピック時のファンファーレ(吹奏楽部生徒演奏)で聖火保持者入場。
 - 3) 聖火は各部活動の代表者(計12名)でリレーし、聖火台に点火する。
 - 4) 進行生徒が聖火リレー実施までの経緯と東京オリンピック・パラリンピックについてアナウンスする。
 - 5) 聖火最終ランナーが聖火台まで走り聖火点火。
 - 6) 聖火台に手作りの炎(布で作成)が灯る。
 - 7) 点火と同時に、吹奏楽部員によるファンファーレ演奏。それに続き、花火打ち上げ。
5. 選手宣誓



○実行委員、放送委員会によるオリンピック・パラリンピック知識伝達プロジェクト

- ・給食時の校内放送を通し、オリンピック・パラリンピックの歴史やオリンピック憲章、オリンピック精神等についての知識を伝達。(9月~10月)

6 主な成果

・聖火リレーの応援から始まった企画ではあったが、コロナの関係で大きく方向転換することとなった。そのおかげで、オリンピックに対する地域の気運を高めるため、自分たちができることは何かを真剣に考え、体育祭開会式での聖火リレーにこぎつけることができた。本物のトーチを用いての聖火リレーといったアイデアに、来校した多くの保護者は仕切り直しの東京大会開

	<p>催を改めて強く意識する様子が見られた。また、コロナ禍の中での聖火リレーを取り入れた体育祭の実施ということで地元新聞の取材を受けるなど、多くの話題性を地元に向けかけることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1週間にわたるオリンピック関係の校内放送のおかげで、放送原稿を作成した実行委員の生徒たちはもちろんそれを聞いた生徒たちにおいても、オリンピック・パラリンピックに対する関心を高めることができた。 • 震災後約10年が経過する区切りの時期に、コロナ対策に合わせ種目内容を自分たちで工夫して体育祭を実施した。その中で、スポーツマンシップに則り最後まであきらめず精一杯取り組む姿。勝敗にかかわらず競技終了後に相手をたたえる態度。そして何より競技を楽しむ自分たちの姿を通して、コロナ禍に苦しむ今の状況をみんなで乗り越えていこうとする勇気を全校生徒及び全教職員はもちろんのこと、来校いただいた多くの保護者と共有することができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍におけるイベントの計画ということで、一度は計画した内容の変更を余儀なくされ、次に考えた体育祭の中での聖火プロジェクトにおいても、いつ体育祭が中止になるか予測がつかない中での準備及び運営となり、教員はもちろん生徒たちのモチベーションを維持していくのが大変難しい状況であった。そんな中、「自分たちも含め地域の人たちに何か明るい話題を提供し、みんなで楽しみ、みんなで笑顔になろう」を合言葉に、結果よりも準備する段階を楽しんでいこうと話しながら、生徒たちと進めてきた過程が、今考えてみると教師にとっても生徒にとっても良い結果につながったと感じる。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業の予算を執行するにあたり、必要な物品の購入や借用について、認められない場面が多々あり、そのたびに関係部署と協議したり指示を受けたりする必要に迫られた。関係部署との事前の確認が不十分だったことが、大きな反省点としてあげられる。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業の実施を受けて、次年度以降はオリンピック憲章の中でも大切にされている、「体・心・頭」のバランスのとれた人間づくりを目指しこれから子どもたちにどう接していくかを、初心に戻ってもう一度見直していきたい。また子供たちには、「一生懸命がんばることの喜びを知ること」、「お手本にしたいと思うような優れた人に出会うこと」、「みんなが大事にしている決まりを守ること」を基本とする生き方を再度考えさせ、それに近づくよう努力させていくことの大切さをこれからの教育活動を通して伝えていくことに全教職員が一丸となって取り組んでいきたい。